

21832

泰西文學史

泰西文學史

緒言



南條文雄講述

本學年ヨリハ哲學館ニ於テ、東洋文學ニ對シテ、西洋文學ノ講義アル筈ニテ、其講  
 師モ已ニ定マリテアリシニ、多用ノ故ヲ以テ斷絶セラレシトテ、當館主ヨリ頃日  
 俄々ニ余ニ其ノ擔當ヲ囑托セラレシナリ、然ルニ余ハ此レマデ此等ノ經驗ナ  
 シ、故ニ臆書中  
 ヲ取リ出シ  
 ンリスルニテ  
 千八百九十  
 九年ニ死セシ人ナリ、即チ日本安永元年壬辰ノ生ニシテ、文政十二年  
 己丑ノ死ナレハ、其著書ノ如キモ已ニ數十年前ノ物ナリ、故ニ其後ノ事ハ近代ノ  
 博言學者ノ說ヲ參考シ、又他ノ文學書ヲモ涉獵シテ之ヲ補フコトヲ得ベシト考  
 フルナリ、兎モ角モ著者ハ有名ナル獨逸ノ哲學者ニシテ批評家ナレバ、其印度以  
 西歐洲古今ノ文學ニ對スル史論ヲ聞クコトハ頗ル面白キコトナレドモ、唯余ノ

084770-000-2

14-220

泰西文学史

南条 文雄/述

M27

DBA-0115



譯語ノ明了ナラザル所アラフコトヲ恐ル、ノミ、譯述外ノ餘論ハ一字ヲ下ダシ  
テ之ヲ錄出シ、學者ノ考案ニ備フルコトアルベシ、今ハ先ヅ著者が四十四歳ノ時、  
即チ西曆千八百十五年ノ講義集第一板ノ序文ヲ譯述シテ、此書ノ性質ヲ明カニ  
スベシ、其文意ハ左ノ如シ、

余ガ希臘ノ文學ト其特性トヲ批評セシ第一着手ノ結果ヲ世ニ公ケニセシヨリ、已  
ニ二十年ヲ經過セリ、固ヨリ此等ノ結果ニ關シタル余ガ年少ノ熱心ハ未ダソレソ  
レノ方向ニ對シテ企テシ所ノ目的ヲ十分ニ達セシニハ非ザレドモ、大體ニ於テハ  
其事業ハ幸ヒニ世人ノ歡迎ヲ受ケタリ、即チ最モ有力ナル批評家ヨリ次第ニ寛容  
ヲ得、且ツ勸勵ノ讚美ヲモ受クルニ到レリ、此レ恐クハ余ガ勉勵ノ誠實ナリシニ起  
因スルコトナルベシ、

此ノ如ク全ク上古ノ文學ノ研究ニ耽リタル隱遁ノ有様ニ於テ數年ヲ經過セシ後、  
余ガ第一ノ企テ社會ニ示セシヤ否ヤ、其成功ト其時代ノ強キ激動トニ鼓舞セラレ  
テ、近代ノ文學ノ考究ニ導カレタリ、此ハ半ハ余ガ兄アウグスト、ウヰルヘルム、シユ  
レーゲルトノ協同ノ事業ニ依リ、半ハ余ガ獨リ自身ノ方法ニ依テ仕遂ゲシモノナ

リ、然レドモ余ガ考察ノ方法ハ普通ノ法ト大ニ異ナル所アルヲ以テ、事業ハ全ク其  
結果ナキニ非ズト雖モ、其働キノ著ルシキ勢力ニ關シテハ、贊成者ヲ得ルヨリモ、筆  
口反對者ヲ引キ起セシコト、考ヘラレタリ、

其同時ニ余ガ自身ノ文學上ノ好奇心ノ満足ハ、余ノ探究ノ第一ノ目的ヲ組織シ、而  
シテ唯文學上ノ有名大家トナルヨリハ、余ガ眼中ニハ尙一層ノ關係ノアリシ程ニマ  
ダ、外部ノ結果モモハヤ決シテ余ガ一身ノ穿鑿ノ進歩ヲ妨グ得ザリシナリ、當時尙  
一般ニハ未ダ新シキ學問ヲ始メントスルコトハ急進ナリト考ヘ居リシ生活ノ時  
ナリシニ、此智識ノ熱望ハ自然ニ東洋ノ言語ト、比較上習慣ノ少ナキ印度ノ文學界  
ニ余ヲ導キタリ、此等ノ穿鑿ノ第一ノ結果ハ、凡ソ六年前ニ余ガ印度言語及哲學ニ  
於テ之ヲ世人ニ示シオケリ

此論ハ千八百四十九年ニ出版セラレタリト云フ、

凡テ此等ノ種々ノ文學上ノ事業ノ間ダニ、中古ノ文藝、殊ニ古代ノ獨逸ノ時ト言語  
ト歴史トガ、強ク余ノ注意ト尊敬トヲ動カシタリ、其以前ヨリモ始メント雖モ、此穿  
鑿ノ特別ナル部分ハ、主トシテ千八百二年以後ノ十二年間ノ業ナリシ、其種々ノ枝

未ニ於テ何事ニテモ余ニ對シテ特ニ著ルシク見ヘ、又ハ一般ニ未ダ知ラレザル所ノ事柄ハ、機會ヲ失ハズコレニ言ヒ及ビタリ、其他ノ材料モ已ニ集マレリ、其幾分カハ已ニ用意セラレタレドモ、未ダ世ニ公クニスルホドニハ十分ニ熟セザルナリ、此ノ如ク文學界ニ於テノ余ノ事業ハ、主トシテ詩ノ文藝ト批評トニ耽リシニ、其性質頗ル多數ノ區別アルガ故ニ、唯纖カニ碎片零餘トシテ存セシナリ、而シテ余ハ久シク方法アル文學全体ノ批評ヲ果スベキ志ヲ懷キタリ、千八百十二年ノ春、多數ノ聽衆ノ前ニ於テ爲セシ講義ハ、豫テ望ミシ好機會ヲ余ニ與ヘタリ、其故ハ公衆ニ示シ、且ツ出版ニ適當ナル方法ヲ以テ起草シタレバナリ、兎モ角モ余ハ敢テ自ラ信ズルコトアリ、一ニハ從前別々ノ部分ニ關シテノ余ノ文學上ノ事業ニ於テ益ヲ得シ所ノ人ハ、此包括的總說ヲ用ユルコトヲ嫌ハザルベシ、二ニハ余ガ以前ノ考究ノ批評上ノ細論ニ於テハ唯少分ノ引カヲ見出ダセシ者モ、今此余ガ企ノ如キハ利益ヲ得ルコトアルベキナリ、

文章ノ引用ト記傳ノ報告トヲ以テ充滿シタル實地ノ文學史ハ必ズ此書ニ於テ期望スベカラズ、余ガ單一ノ目的ハ、總テ各年代ノ文學ノ特性ヲ解釋シ、最要ノ國民

ノ間ダニ於テ其進歩ノ道路ヲ探驗スルコトノ外ナシ、余ガ他ノ論說ニ於テ屢企テタルガ如キ一々ノ問題ニ於テ詳細ナル批評ノ穿鑿ハ、此書ノ管内ニハアラザルナリ、此書ハ唯普通ノ檢察ニ限ルコト、知ルベシ、然レドモ其結果カ當ニ新奇ナルノミナラズ、一般ノ方向ニ關シテ肝要ナリト考ヘラル、時ニハ、其穿鑿ノ結果ハ屢略說スルコトアルベシ、最モ有名ナル著者ニ就テ與ヘタル行狀ニ由テ、余ガ久シク且ツ屢交通セシコトヲ了解セルコトハ容易ナルベシ、若シ何時ニテモ余ガ搜索ニ得難キ書ノ、タトヒ要書ニ非ズト雖モ、叢書中ノ一部ニ非ザルモノニシテ、説明ノ目的ヲ以テ揭示スベキコトアラバ、其事實ヲハ的當ニ示スベキナリ、若シ此文學ノ説明ガ、此ノ如キ題目ヲ以テ期望シ得ルコトヨリモ、寧ロ哲學ノ歴史ヲ多分ニ含有スルナラバ、此ヲ以テ餘計ナルコト又ハ偶然ナルコト、ナスコト勿レ、其故ハ夫コソハ一國民ノ智力上ノ生命ノ潤大ナル精氣ナリト常ニ主張スル所ノ余ノ文學ニ就テノ特別ノ概念ト全ク一致スレバナリ、故ニタトヒ餘計ノ事ナリト注視セラル、トモ、之ヲ以テ過失ナリト考察セラレザラノコトヲ希望ス、右ハ序ノ全文ヲ譯述セシナリ、サテ原書ニハ講義ノ數十六アリ、其最初ノ五個ノ

中ヲ拔萃譯述シ、其他ハ一々抜抄ノ暇モ無カルベシ、故ニ今左ニ其講義ノ目錄ヲ記シテ其概略ヲ示スベシ。

泰西文學史

- 第一 此書ノ序引ト方法○國民ノ生活ノ法ト道徳上ノ卓越ナルコトニ於テノ文學ノ勢力○上古ヨリソフオクリニスノ時代マデノ希臘ノ詩、
- 第二 其後ノ希臘ノ文學○龍辯ト哲學○亞歷山得利亞時代、
- 第三 評論○羅馬人ニ於ケル希臘人ノ勢力○羅馬文學ノ綱領、
- 第四 羅馬文學ノ短期○ハドリアヌス帝(西曆七十六年生、百三十八年歿)時代ノ新紀元○西洋哲學ニ於ケル東洋思想ノ勢力○摩西ノ記錄、希伯來語ノ詩○波斯ノ宗教○兩約書ノ思想ト舊約全書ノ特質、
- 第五 印度ノ石碑ト史詩○上古ノ葬式ノ作法○印度ノ文學ト智力、
- 第六 歐洲ノ再考○羅馬ノ言語ト文學トニ於ケル基督教ノ勢力○新約全書ノ特質○北方ノ國民○ゴスイツク語ノ史詩○オーディヌス神ノ事、ルニツク語(上古北人ノ語ノ書籍「エツダ」(氷島ノ詩)ノ事、
- 第七 「チエト」トニツク語(獨逸族語)ノ詩○中世○今代歐洲言語ノ基源○中世ノ詩

○戀慕ノ歌○軍歌ノ精神ニ於ケル、諾曼ノ特質ノ勢力○特ニシヤレマン帝ニ就テ、

泰西文學史

- 第八 軍歌ノ第三回○アーサル王ト「ラウソンドラ」(傳名)トノ事○西洋ノ詩ニ於ケル十字軍ト東洋トノ勢力○亞拉比亞語ノ歌○フェルドッスイノ波斯語ノ詩史○「ニバル」デ、ライド(詩ノ題號)ノ最後ノ編集○ウオルフラム、フォン、エシエンバフ(蛇曲ニ長セシ獨逸ノ俗人、千二百二十五年頃死ス)○ゴスイツク建築法ノ眞實ノ緊要○後世ノ軍歌○「シド」(西班牙語ノ詩)、
- 第九 伊太利亞ノ文學○中世ノ譬喻○基督教ト詩○ダインテ(伊ノ詩人、千二百六十五年生、千三百二十一年死)、「ペルトラルカ」(伊ノ詩人、千三百四年生、七十四年死)、「ボツカーチヨ」(伊ノ小説家、千三百十三年生、七十五年死)○伊太利亞語ノ詩ノ一般ノ特質○今代ノ羅甸語ノ詩○同上ノ有害ナル勢力○羅馬古代ノ政度○「マ」  
「クアーヴェツリ」(フロレンス)ノ政事家ニシテ著述家、千四百六十九年生、千五百二十七年死)○第十五世期ノ肝要ナル發見、
- 第十 歐洲ノ北方ト東方トノ國民ノ文學○中世ノ獨逸神秘學ノ正式ノ神、

第十一 宗教改革前後ノ哲學ニ於ケル普通ノ批評○加特力教國ノ詩○西班牙、葡萄牙、伊太利亞○ガリセライソノ(西ノ詩人、千五百三年生、三十六年死)、エルセーリエ(西ノ詩人、千五百三十三年生、九十五年死)、カモエンス(葡ノ詩人、千五百二十四年生、七十九年死)、ターツソノ(伊ノ詩人、千五百四十四年生、九十五年死)、グアリーリニ(伊ノ詩人、千五百三十七年生、千六百十二年死)、マリーリノ(伊ノ詩人、千五百六十九年生、千六百二十五年死)、セルブロンテス(西ノ小説家、千五百四十七年生、千六百十六年死)。

第十二 小説○西班牙國ノ戯曲ノ詩○スペインセル英ノ詩人、千五百五十二年頃生、九十九年死)、シエロクスピア(英ノ詩人ニシテ戯曲作者、千五百六十四年生、千六百十六年死)、ミルトン(英ノ詩人、千六百八年生、七十四年死)○路易第十四世ノ時代○佛蘭西語ノ悲劇

第十三 第十七世世期ノ哲學○ベロコン(英ノ哲學者ニシテ政事家、千五百六十年生、千六百二十六年死)、ユーゴ、ゴルテウス(佛人)、デーカート(佛ノ哲學者、千五百九十六年生、千六百五十年死)、ボシユエー(佛ノ僧正ニシテ説法者、千六百二十七年生、千七百四年死)、バースカール(佛ノ哲學者ニシテ數學家、千六百二十三年生、六十二年死)○思想法ノ改變○第十八世期ノ精神○佛蘭西ノ無神論及ヒ革命精神ノ要略、

第十四 佛人ノ一層輕快ナル著述ト英人ノ摸擬○佛英二國ニ流行ノ文字○今代ノ小説○ルソノ(佛ノ哲學者ニシテ著述家、千七百十二年生、七十八年死)トビュロン(佛ノ博物學者、千七百七年生、八十八年死)トノ散文○ラマルタイソン(佛ノ著作者、政治學者ニシテ雄辯家、千七百九十年生、千八百六十九年死)○英國流行ノ詩○スコット(蘇格蘭土ノ小説家ニシテ詩人、千七百七十一年生、千八百三十二年死)トバイロン(英ノ詩人、千七百八十八年生、千八百二十四年死)○伊太利亞人ノ今代ノ演劇○英ノ批評ト歴史○懷疑ト道德ノ信仰○佛國ニ於テノ一層純潔ニシテ高尚ナル哲學ノ回復○ボナルドトサン、マールタン(佛ノ東洋語學者、千七百九十一年生、千八百三十二年死)、ライメンナリ(佛ノ著述家、千七百八十二年生、千八百五十四年死)トブー、メートル(佛ノ小説家、千七百六十三年生、千八百五十二年死)○サー、ウ井ルリアム、デヨンス(英ノ東洋語學者、千七百四十六年生、九十四年死)トバ

ルク(英ノ政治家ニシテ雄辯家、千七百二十九年或ハ三十年生、九十七年死)

第十五 再考○獨逸哲學○スピノザ(和蘭ノ哲學者、千六百三十二年生、七十七年死)トライブニツ(獨ノ哲學者ニシテ數學者、千六百四十六年生、千七百十六年死)

○第十六十七兩世期間ノ獨逸ノ言語ト詩○ルーラル(獨ノ改教首唱者、千四百八十六年生、千五百四十六年死)、ハンス、サークス(獨ノ修靴者ニシテ詩人、千四百九十四年生、千五百七十六年死)、ヤコブ、ビーメン(獨ノ修靴者ニシテ接神學者、千五百七十五年生、千六百二十四年死)○オービツ(獨ノ詩人、千五百九十七年生、千六百三十九年死)ト、シレンシア學派○ウエストファリアノ平和ノ後ノ雅趣ノ衰微、時々ノ詩

○第十八世期前半ノ獨逸ノ詩人○フンデリツク第二世(普國ノ王、千七百十二年生、八十八年死)○クロプストツク(獨ノ詩人、千七百二十四年生、千八百三年死)、救世者<sup>ア</sup>及ヒ北方ノ神秘學○ウイローラント(獨ノ詩人、千七百三十三年生、千八百十三年死)ノ軍歌○獨逸語ニ適當セシ上古人ノ詩句ノ分量○押韻ノ辨護○アードー  
ルンク(獨ノ語學者、千七百六十八年生、千八百四十三年死)、ゴットシエツト(獨ノ著作家ニシテ批評家、千七百年生、六十六年死)及ヒ謂フ所ノ黃金世界○今代獨逸文

學ノ第一世代、即チ創造者ノ時代、

第十六 普通ノ視察○快活文學ノ年代○自然ト現今ノ快助ノ眞實トニマア詩ノ進向○獨逸ノ批評○レツシンク(獨ノ著作家、千七百二十九年生、八十一年死)トヘ  
ルアル(獨ノ哲學者、說教家ニシテ著述家、千七百四十四年生、千八百八年死)、流行ノ美學○哲學者トシテノレツシンク、思想ノ自由ト文華者、約瑟帝第三世(獨ノ帝、千七百四十一年生、九十年死)○第三世代ノ特質、カント(獨ノ心理學者、千七百二十四年生、千八百四年死)ノ哲學○グーテ(獨ノ著作家、千七百四十九年生、千八百三十二年死)ト、レレル(獨ノ詩人、千七百五十九年生、千八百五年死)○將來ノ希望○フイック  
テ(獨ノ心理學者、千七百六十二年生、千八百十四年死)ト、ライク(獨ノ詩人ニシテ小説家、千七百七十三年生、千八百五十三年死)○獨逸文學ノ眞實ノ特質○今世ノ闊大ナル觀念

右ノ目錄ノ中、人名ノ下ノ挿註ハ、ウエプスタル英語大辭書ノ附録ニ依テ添加セシモノナリ、サテ右ノ第一講ヲ、抜萃シテ已ニ四五回モ講述セシト雖モ、其評論頗ル高尚且ツ微細ニシテ、十分ニ其意ノ在ル所ヲ見出ダスニ苦ム程ナリ、故

ヲ以テ譯語モ往々難澁ヲ免カレズ、故ニ其講案ヲ錄出スルコトヲ止メ、更ニ近年ノ新著述ニ依テ、先ゾ希臘ノ古代ノ文學ノ一班ヲ講述スルコト、ナスベシ希臘古代文學

泰西文學史

希臘古代文學ノ一班ヲ講述スルニ就テハ、時代ヲ三ツニ分チ、第一ノ時代ヲ、上古ヨリ西曆紀元前四百七十五年マデトシ、第二ノ時代ヲ、同ク三百年マデトシ、第三ノ時代ヲ、紀元後五百二十九年マデトス、今其第一ノ時代ノ學者ト其著書トヲ紹介スルニ先ダチテ、簡單ニ總論ヲ述ブレバ左ノ如シ、  
歐米ノ學者社會ニ於テハ、上古ノ希臘語ノ原書ヲ讀ム人ト、唯其翻譯書ノミヲ讀ム人トヲ問ハズ、一般ニ希臘文學ヲ以テ、古來相傳ノ最モ貴重スベキ物ノ一ナリトスルコトニハ異論ナシ、サテ地ヲ耕ヘシ、鑛物ヲ鑄造シ、戰爭又ハ通商ヲ以テ家ヲ富マシ、或ハ美麗ナル家又ハ殿堂ヲ造作スルコト杯ヲ始メテ考ヘ出シタルモノハ希臘人ニ非ズト雖モ、始メテ社會ノ生活ノ先導者タラント思考セシ者ハ此人民ナリト云フ、即チ希臘國ノ多數ノ都府ノ存在ヲ以テ其第一ノ證據トスルナリ、他ノ人民ハ尙各部落ヲナシ、又ハ專制ナル君主ノ下ニ生活セシ時ニ當リテ、希臘人ハ已ニ都府ニ

泰西文學史

集マリテ同等ノ權利ヲ主張スル法律ヲ以テ支配スル所ノ社會ヲ形チ作りタリ、又其他ノ一證ハ、希臘語ノ書籍ニ於テ見ルベキナリ、即チ其國ニハ事物ノ道理ヲ研究セント勉強セシ所ノ詩人アリ、歴史家アリ、哲學者アリテ、種々ノ著書ヲ見出ダスコトナリ、此點ニ於テ希臘文學ニハ、他ノ文學ニ無キ所ノ利益アリ、イカニ古人ガ順序アル判斷ノ法ヲ始メシ歟、又イカニ熱心ニ種々ノ疑問ヲ答辨セント試ミシ歟ヲ示スコトアリ、此等ノ疑問ハ其以來已ニ論決セシモノモアリ、又今日ニ到ルマデモ尙討論中ノモノモアルベキナリ、此等ヲ希臘人ノ理性ノ元氣ト稱スルナリ  
今時ノ泰西人ノ生活上ニモ、希臘人ノ思想ノ關係ヲ見出ダスコトアリ、即チ希臘語ノ書籍ハ、實ニ上古ノ熟考者ノ方法ト目的トヲ示スニ止マラズ、今日ノ宗教ト云ヒ、道徳ト云ヒ、學術ト云ヒ、政治ト云ヒ、文學ト云ヒ、社會百般ノ事ニ於テ最モ深廣ナル勢力ヲ得シ所ノ結果マデテモ合ムコトナリ、希臘熟考者ノ大家ガ始メテ其思想ヲ發言セシ以來、世界ニ於テ其好結果ヲ得タリト云フベシ、倫理學、論理學、又ハ幾何學杯ニ於テハ、今日ノ學問ノ基礎ハ皆希臘人ノナセシ事業ナリ、又今時最モ直接ニ有用ナル政治學ノ幾分ヲモ讀ミ得ベキモノハ希臘ノ歴史家ト能辨家トノ著書ナリ、

希臘人ノ思想ノ特性ト事業トヲ知ラズシテハ、基督教ノ内部ノ教義ノ歴史並ビニ其教會ノ外部ノ歴史ヲモ十分ニ了解スルコトハ六ク敷カルベシ、基督教ノ勢力ニ依テ二ツノ主義ガ今時ノ社會ノ精神上ノ生活ニ入リシト云フ、其一ヲ希伯來主義トシ、其二ヲ希臘主義トス

次ニ論ズベキハ希臘文學ノ原造ニシテ擬造ニ非ザルコトナリ、紀事體(テピック)ト翠謠體(ライリツク)ト戯曲體(ドラマティック)トノ如キ詩ノ諸體ト、歴史體(ヒストリカル)ト理論體(フィロソフィカル)ト演說體(オレトリカル)トノ散文ノ諸體ハ、今日ニ在テハ無論事物上ニ自然ニ現在スルモノト思フ程ナレドモ、實ハ希臘ノ英才ガ此業ヲ始メシ時ニハ未ダ全ク現存セザリシモノモアリ、又タトヒ現存セシモ唯其萌芽ノミナリシナリ、然ルニ次第ニ此等ノ種類ノ文章ノ必用ヲ感ズルニ及ンテ、希臘ノ英才ノ創造力ハ其體ヲ完全ニセシナリ、ソレニヘニ希臘文學ハ宿ニ文學トシテ甚ダ面白キノミナラズ、全ク泰西文學ノ源泉ト稱スベキナリ、或ル場合ニ於テハ、今時ノ文學ニ對シテハ、羅馬文學ガ希臘文學ヨリモ直接ノ關係アリト雖モ、其本源ヲ尋メレハ之ヲ希臘ニ歸セザルベカラズ、

史 學 文 西 泰

次ニ文體ノ事ヲ云フベシ、元來希臘人ハ知覺力ノ頗ル鋭敏ニシテ適合ナリシト共ニ、身體ノ美麗ナル人種タリシナリ、故ニ何事ニテモ張大ナル事カ又ハ理ニ背キタル事ハ直チニ之ヲ感ゼシナリ、即チ彼等ノ常ニ用ヒシ格言ニモ、餘計ニ事ヲ爲スベカラズト云ヘリ、彼等ハ何事ニ依ラズ自然ニ適合ト定度ト云フコトニ從順ナリシト云フ、此適合ト定度トヲ言ヒ顯ハス希臘語ヲ「カイロス」ト云フ、此ハ精密ト云フ意味ノ語ナリ、即チ正當ノ處ニ線ヲ畫クガ如キ天性ヲ言ヒ顯ハスナリ、夫故ニ彼等ガ殿堂ヲ建築スルニモ幅員廣狹ノ偏ナク、裝飾ノ位置ヲ誤マルガ如キコトモナシ、此レガ希臘ノ首府ナル雅典アテネニ在ル「パルセノン」ト稱スル建築ノ單純ニシテ相稱ヒ、マコトニ完全ナル所以ナリ、又希臘人ガ肖像ヲ彫刻スルニ當リテハ、宙ニ其肢體ヲ各其正當ノ位置ニ排列セシノミナラズ、石ヲシテ不適當ナル有様ヲ顯ハシ又ハ單ニ繪畫トシテ見ルベキカ如キ形ヲ示スコトヲ禁止セリ、此等ト同様ニ希臘人ガ書物ヲ著ハス時ハ常ニ適合ト云フ感覺ニ導ビカレタリ、即チ彼等ガ感ズル所ハ、若シ吾語ガ思想ヨリモ一層大ナル歎、又ハ奇異ナル時ハ、平均ヲ失フガ故ニ醜キナリ、又文章ノ一ノ種類ニ適合ナル文體ハ、必ズ他ノ種類ニハ不適合ナルベシト云フコトナ

史 學 文 西 泰



リ、其上希臘人ノ考ニハ、著者ハ自由ナルベキナリ、若シ巧ミニ言語ヲ積ミ重キ乍ラ思想ヲ明カニセザルガ如キ文章ハ、位置ヲ失ヒタル飾リヨリモ尙醜惡ナリトセリ、故ニ希臘ノ著者ノ最上ナル著述ニハ一般ニ二ツノ見ルベキ事アリ、一ニハ文牀ガ正シク其題ト適當セリ、例セバ詩ニ於テハ、紀事牀ハ明カニ翠謠牀ト其牀ヲ異ニス、又散文ニ於テモ、歴史牀ハ演說牀ニハ書セザルノ類是ナリ、二ニハ著者が自由ナラント試ミタリ、即チ思想ノ爲メニ言語ヲ撰擇シテ、思想ヲ言語ニ服從セシメザリシ事はナリ、

希臘文字ノ一般ノ進歩ノ次第ヲ云ヘバ、此文學ハホーマル以前ヨリ今日ニ到ルマテ現存セリ、即チ同一ノ言語ガ多少ノ變化ヲ經乍ラモ、尙今日ノ思想ヲ容易ニ明了ニ言ヒ順ハズベキ屈曲變化ノ自由ナルコトヲ證明スルナリ、此長命ナル文學ノ全キ生活上ニ於テ時代ヲ分テハ大ヒニ三ツトナルナリ、第一テ古代文學トス、此レハホーマルヨリ西曆紀元後五百二十九年マデナリ、即チヂヤスタニアン帝ノ命令ニ依テ、基督教ヨリ異教トスル所ノ哲學ノ學派ノ禁止セラレシ時マデナリ、第二テ中世文學トス、又ハ「バイザンタイン」文學ト云フ、此ハ五百二十九年ヨリ千四百五十三

年マデナリ、即チ土耳其人ガ「コンスタンティノール」ヲ攻メ取リシ年マデナリ、第三テ今世文學トス、此ハ「マニユエル、コムチナス」帝ノ世ニ於テ、即チ千四百四十三年ヨリ八十年マデ存命ノセオドラス、プロドロマスト云フ僧ガ、俗語ヲ以テ希臘ノ詩ヲ作リシヲ始メトスベシト云フ、前世期ノ終リニ於テ、學者ニシテ愛國心アル希臘人コ「リリス」氏ハ自ラ例ヲ出ダシテ、亂レタル俗語文章ノ牀ト外國語ノ亂入ヲ避ケテ、文學上ノ言語ヲ清潔ニスルコトヲ勉メント云フコトナリ、

サテ右三大時代ノ第一希臘古代ノ文學ハ、上古文學ト「アチナ亞地加

「アチナ亞地加」文學ト、衰落ノ文學トノ三時代ニ分ツナリ、○其第一ノ上古文學ハ「アチナ亞地加」ヲ以テ始メトシテ、西曆紀元前凡ソ四百七十五年ニ達ス、此時代ニハ紀事牀(エピック)、上ノ十四頁五行ニ、テ「アチナ亞地加」ニ作ルモノハ刊誤ナリ、ノ時ハ繁昌セリ、悲歎牀(エリイヂヤツク)ト短長音韻牀(アイアンピツク)ト翠謠牀(ライリツク)トノ時ハ興レリ、散文ハ粗野ナガラモ已ニ小亞細亞ノ「アチナ亞地加」希臘人ノ間ダニ始マレリ、○第二ノ「アチナ亞地加」文學ハ紀元前凡ソ四百七十五年ヨリ三百年マデノ間ニ繁昌セリ、悲劇ト笑劇トノ二牀ノ戯曲牀ノ時ハ雅典ニ於テ完全ノ域ニ達セリ、又雅典人ハ歴史牀ト演說牀ト理論牀ト問答ト

ニ於テ散文ノ文學ヲモ完全ニセリ、希臘人ノ英才ハ此時代ニ於テ優美ナル軀裁ヲ創製スル事業ヲ卒ヘテ、政治上ノ自由ナル上古ノ元氣ノ本源ヲ失ヘリ、夫故ニ詩文ニ於テ創製ノ技術ノ時代ヨリ、文學ト學術トニ於テ熟練ナル事業ノ時代ニ推シ移リシナリ、○第三ノ衰落ノ文學ハ、二ツノ重モナル時代ヲ有セリ、其一ヲ亞歷山得利亞時代トス、此ハ紀元前三百年ヨリ、同シク百四十六年ニ希臘ガ羅馬ノ征服ノ地、即チ領地トナリシマデヲ云フナリ、其二ヲ希臘羅馬時代トス、此ハ紀元前百四十六年ヨリ、紀元後五百二十九年ニ異教ノ哲學ノ學派ノ閉鎖マデヲ云フナリ、希臘文學ハ自然ノ發達ニシテ人造ノモノニ非ズ、譬ヘバ一年ノ季候ガ百花ヲ次第ニ開カシメ、次第ニ其果ヲ結バシムルガ如クニ、希臘人ノ才智ノ黃金時代モ其特別ノ氣候ヲ有セリ、即チ文學ノ一ノ種類ガ發達シタル後ニ於テ他ノ種類ガ發達シ、次第ニ榮枯セリト云フ、若シ他邦ノ雛形ヲ模造スル所ノ文學ナラバ、詩ト散文トヲ簡バズ、如何ナル種類ヲモ十分ニ一度ニ着手シ得ベキナリ、然レドモ希臘人ハ雛形ヲ有セザリシナリ、彼等ハ次第ニ完全ニセシ時モ散文モ皆其軀裁ヲ自ラ發明セシナリ、其發明ノ次第ハ彼等ノ智力ト社會ノ生活ノ發達ニ應ヰテ、其歩ヲ進メタリ、希臘

人種ノ各支族ハ、其自然ノ順序ニ應ヰテ、最モ適當ナル事業ニ於テ其特別ノ部分ヲ實行セリ、希臘人種ノ三大支族ヲ「イオーリアヤン」ト「ドーリアヤン」ト「アイオーニヤン」ト云フ、文學ノ歴史ノ最初ノ時代ニ於テ、イオーリアヤン族ノ重モナル處ハ、「セツサリ」ト「ピロオーシヤ」ト「イードーリヤ」ト「アカーナニヤ」ト「ペロポネーサス」半島ニ於テ、ノ「アイカデヤ」ト「エリス」ト「アカイヤ」ト、小亞細亞ノ西北ノ海岸ト、「レスボス」島ト、伊太利亞ノ東南岸ノ大希臘ノ「クロイトン」ノ如キ殖民地トヲ云フナリ、第二ノ「ドーリアヤン」族ハ、「ペロポネーサス」半島ノ「メツセニヤ」ト「ラコニヤ」ト、其他「コリンス」ト「メガラ」ト、又小亞細亞ノ西南ノ海岸ノ殖民地ト、「クレタ」ト「ロードス」トノ二島ト、西々利島ノ東南ニ方ノ海岸ノ「シラキエリス」及ヒ其他ノ殖民地ト、「タレントム」及ヒ其他ノ殖民地ヲ所有トセリ、第三ノ「アイオーニヤン」族ノ亞地加部ハ亞地加ト「ユービーヤ」トヲ所有トセリ、此族ハ小亞細亞ノ西岸ニ住シテ、北ニハ「イオーリアヤン」族アリ、南ニハ「ドーリアヤン」族アリシナリ、其外「サモス」ト「キオス」ノ島ト、「イオーヂヤン」諸島ノ多分ト、伊太利ノ都府ト西々利ト、「エークス」河上トニ廣ク散布シタル殖民地トニ住セ

此三支族ハ各希臘語ノ變體ヲ用ヒタリ、之ヲ方言ト稱ス、其區別ハ餘リ細論ニ涉ルガ故ニ今ハ之ヲ略ス、

言語ノ區別ニ次ギテハ、文學ヲ書スル技術ノ事ヲ言ハザルベカラズ、語ノ適當ノ意味ニ依レバ、文字無クレバ文學無シト云フコトヲ得ベシ、其故ハ常ニ文學ト譯スル所ノ英語「リテ、ラチニール」ト云フ語ハ、確定シタル體ト云フ意味ヲ含蓄スレバナリ、記憶モ大ナル業ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ、唯口傳ノミニテハ確定シタル文牒ナドヲ保證スルコト能ハザルナリ、希臘人ハ「フィーニーシヤ」人ヨリ文字ヲ學ビ得タリ、故ニ最初ニハ文字ヲ呼ンズ「フィーニーシヤ」記號ト云ヘリ、希臘人ハ「フィーニーシヤ」ノ商人ト通商セシコトハ、「サイドン」、「フィーニーシヤ」ノ都府ガ尙大ナル通商ト海軍トノ勢力アラシ時ニシテ殆ント紀元前千百年以前ノ事ナリ、希臘人ハ聰明ニシテ鋭敏且ツ奇談ヲ好ム人種ナレバ、「フィーニーシヤ」人ヨリ此文書ノ技術ヲ得ル前ニ數百年ヲ經過セシ者トハ信ヲ難キナリ、「フィーニーシヤ」人ノ鋭敏ナルコトト、其鑛物ノ製造ノ如キハ、希臘人ノ最モ貴重スル所ニシテ、其ノ通商上ノ敵トセシハ唯

希臘文學史

希臘文學史

此人民ノミナリ、紀元前凡ソ四百四十年頃メ人ナル歴史家ヘロドタスハ自身ヨリ數百年前ニ文字ノ實用ハ已ニ希臘人ノ熟達セシ所ナリト云ヘリ、此ヘロドタスハ批評的古物學者ニハ非ズト雖モ、希臘人ノ生活ヲ知り、其記錄ヲ取調ベ、且ツ才學アラシ大旅行者ナリ、而シテ若シ其時ノ希臘人ノ中ニ於テ少ナクトモ誤リヲ傳ヘザル者ノ一般ノ信用スル所ニ非ザレハ、ヘロドタスモ文書ヲ用ユルコトノ甚タ古代ニ屬スルト云フ説ヲ取ラザル等ナリ、然ルニ何處ニモ此説ヲ用ヒ居レリ、希臘人ハ言語ノ文牒ガ最モ古代ノ文學ニ於テ見出ス如クニ確定サレシ以前ニ、已ニ文字ノ實用ヲ知リシナラント云フコトハ、現存スル所ノ確證アリ、然レドモ希臘國ニ於テ文字ヲ用ヒシ例又ハ確乎タル説ハ紀元前七百年以前ニ置クコト能ハザルナリ、讀書ノ普通トナリシコトハ其進歩甚ダ遲鈍ナリシナリ、文字ノ實用ヲ始メシ者ハ僧徒ト詩人トナリ、アルヒ「今ノカストリ」東經二十二度三十一分、北緯三十八度二十九分ニ在リ」ニ在リシ殿堂ハ恐クハ最古ノ中心ノ隨一ナルヘシ、紀元前四百三十一年ヨリ四百四年マテ連續セシ「ペロポネサス」戰爭ノ時ニ當リテ雅典ニ於テ市場ニ書籍店アリ、而シテ書籍ノ輸出貿易アリタリ、寫本ハ奴隸ニ依テ騰寫サレタリ、此

奴隸ノ質錢ハ廉ナリシ故ニ、寫本ノ卷物モ不廉ニハ非ザリシナリ、殿堂ト少數ノ學者又ハ大家ハ多數ノ藏書ヲ所有セリ、然レドモ希臘書籍ノ最初ノ公共圖書館ハ紀元前三百六年ヨリ二百八十五年マテ王位ニ在リシトレミ第一世ガ亞歷山得利亞ニ建築セシモノナリ、

希臘ノ文學ハ「イリヤド」ト「オイヂツセ」トノ二篇ノホーマル詩ヲ以テ始メトス、然レトモ此二篇ハ他國ノ單純ナル小曲節ノ詩ノ如キニ非ズ、已ニ高尚ニ完全ナル伎術上ノ書ナリ、故ニ其以前已ニ久シク詩學ノ實習アリシ後ニ非ザレバ、到底製出スルコト能ハザル程ノ書ナリ、然リト雖モホーマル以前ノ希臘ノ詩ノ今日ニ現存スルモノナシ、唯今日ニ於テ判知シ得ベキモノハ、ホーマルノ詩ガ取り用ヒシ一般ノ体裁ナリ、恰カモ英國ノ文學ガ「ヨイサル」ト共ニ第十四世期ニ突然トシテ始マリ、其以前ノ「ヒオウルフ」又ハ「シードモン」或ハ上古ノ宗教上ノ詩ハ、概ニ其名ヲ知ルノミナルガ如シ、最モ古代ニ屬スル希臘ノ詩ハ其宗教ト密着ノ關係アリト云フコトハ最モ確然タル事實ナリ、

太古ニ在リテハ波斯人ト印度人ト希臘人ト伊太利亞人ト「セルト」人又ハ「クルト」人即チ英蘭ノ内地「ウニール」ノ人、蘇格蘭ノ山地ノ人、愛爾蘭ノ土著人等ト「チニート」ノ人、日耳曼族、即チ獨逸、埃地利、丁抹、荷蘭、英國等ト「スラヴ」人（北歐即チ魯西亞等ノ人）トノ遠祖ガ中央亞細亞ニ同居セシ時アリ、其時分ニハ大陽ト天明ト大地トノ如キ眼前ニ見ルベキ者又ハ自然ノ形骸ヲ禮拜セシナリ、因テ此等ノ人ハ此等ノ禮拜セラレタル勢力ヲ人間ノ形ト心トヲ具ヘタル人ノ如クニ思考セリ、即チ彼等ノ考ニテハ太陽ハ天ヲ横ギリテ火ノモエ上ル所ノ車ヲ驅リ回ル神ナリト想ヒ、天明ヲハ暗淡朦朧ナル處ニ薔薇ノ如キ指ヲ置ク所ノ女神ナリト考ヘ、大地ヲハ諸神ノ母ナリト呼ブニ到レリ、然レドモ此等ノ變化ハ一度ニ來リシニハ非ザルナリ、此自然ノ勢力即チ太陽又ハ天明ノ如キヲ人ノ如クニ言ヒ始メシ時ニハ、未ダ全ク其實ハ自然ノ勢力ニシテ、人ノ如キ名ヲ與フルハ唯其記號ナリト云フコトハ忘却セザリシナリ、此事物變遷ノ跡ハホーマルノ詩ヨリモ古ルキ印度ノ婆羅門族ノ神聖ナル詩ト云フベキ、吠陀ニ於テ見ルベキナリ、此吠陀ハ希臘人ト印度人トガ中央亞細亞ノ普通族ノ有様ヨリ分離セシ前ニ現存セシ上古ノ宗教ノ精神ニハ他ニ比スレバ一層近シトスルナリ、唯其名ノ外ニハ殆ンド知ルコト能ハザル上古ノ希臘ノ歌ニ於テ

モ同一ノ形跡ヲ見ルベキモノアリ、即チリナスノ歌、イアーレマスノ歌、ヒラリスノ歌ノ類是ナリ、此類ノ歌ハ不時ノ死ニ遇ヒシ美麗ナル年少ヲ傷悼スルヲ以テ通例トス、リナスハ諸神ヨリ發生セシ童子ニシテ羊小屋ノ中ニ生長シ、群犬ニ引キ裂カレタリト云フ、此ハ長ルベキ狼星シリアスノ爲メニ殺サレタル春ノ若キ愛スベキ有様ヲ傷ミシナリト云フ、

希臘人ハ美麗ナル形チ、特ニ人牀ノ美麗ト云フコトノ意味ニ於テ他ノ人民ニ異ナル感覺アリシナリ、彼等ガ亞細亞ノ同族人ト分離セシ時ヨリ次第ニ美男子美婦人ノ明カナル形ヲ以テ彼等ノ諸神ヲ解キ明セリ、彼等ハ印度ノ諸神ノ影ノ如キ又ハ異常ナル形ヲ以テ満足セザリシナリ、彼等ハ「セツサリ」ノ北方ニ在ル雪ヲ戴ク高山ノ「オラムバス」ノ頂上ニ於テ此等ノ男女ノ諸神ハ人ノ形ヲ以テ生活スト云ヘリ、詩人ハ希臘人ガ亞細亞ヨリ携ヘ來リシ古キ譬喩又ハ神秘ナル話ヲ續リ込ミテ、ソレノ神ヲ讚美スル詩歌ヲ作レリ、此ノ如クニ尊敬サレタル諸神ノ一牀ヲアポツロートス、此神ハ光明ト清淨トノ神ナリ、音樂ノ主神ナリ、幸福ノ施與者ナリ、病氣ノ醫療者ナリ、此神ニ對シテハ、其救助ヲ乞フ時ト、其救助ヲ謝スル時トニ、特別ニ「バイ

アノスト稱スル、健康ノ歌ト云フモノヲ唱ヘタリ、又ノ一神ヲ「アイミールト」トス、此ハ大地母ト云フ意味ノ名ナリ、即チ穀物ヲ與フル神ナリ、因テ此女神ノ讚美歌ニハ其仁恵ヲ嘆シ、又ハ其女子ヘルセフオチガ冥土ニ取リサラレシヲ尋チシ時ノ此女神ノ悲哀ノ情ヲ述べ、又ハ再ヒ其女子ヲ見出ダセシ時ノ女神ノ喜悅ノ情ヲ陳スルナリ、次ニ「オニサス」ハ酒ノ神ナリ、浮戯ト暴飲ノ神ナリ、其他人ノ精神ヲ擧揚スル肉牀ノ歡樂ノ神ナリ、此「オニサス」ト前ノ「アイミールト」ノ二神ハ死後ノ生命ノ考ヲ以テ秘密神教ニ於テハ亦同伴者トスルナリ、又レベリ「ハ小亞細亞」ノ「ヂヤ」人ガ諸神ノ母ニ附スル名ナリ、此女神ハ「コリバ」ラ「イス」ト呼バレタル僧徒等ニ依テ、鏡鍔ヲ鳴クシ、笛ヲ吹キ、且ツ粗野ナル舞蹈ヲ以テ禮拜セラレタリ、希臘ノ古話ニ於テ最モ古キ詩人「ホメル」ニアストス、此小説中ノ人物ノ名ハ、印度ノ「リプ」ト云フ階ノ希臘風ノ形チナリ、印度ノ讚美歌ニ於テ此「リプ」ト云ハレタル人々ハ大伎藝家ニシテ神トマテ尊崇セラレシ第一等ノ人類ナリシト云フ、他ノ上古ノ詩人ノ如ク此「オ」ル「ツ」ニアスハ「スレ」シヤ「人」ト呼バレタリ、此ハ詩ヲ統領スル所ノ女神「ミューゼス」ノ禮拜ニ關係アル「タ」示スナリ、其故ハ「スレ」シヤ「人」ヨリ

此禮拜ノヨトヲ希臘人ニ傳ヘシニ由ル、  
以上ヲ希臘古代文學史ノ總論トスルナリ、

史詩又ハ紀事詩

ホーマル「イリアド」ト「オディッセー」トノ二篇ハ紀元前九百四十年ヨリ八百五十年マ  
ズノ物トス、其次ニ出ヅ、懐古ノ詩ヲ作りタルモノヲ「シクリツク、ポロイッ」ト云フ、  
此年代ハ七百七十六年ヨリ五百五十年マデナリ、其中間ニ出ヅタル詩人ノ大家ヲ  
ヘシオドト云フ、此人ノ年代ヲ八百五十年ヨリ八百年マデトス、又ホーマル派ノ讚  
美歌ハ七百七十六年ヨリ五百年マデヲ其年代トス、

上古ヨリ神聖ナル讚美歌ノ外ニ、軍人及ヒ軍事ヲ詠ゼシ歌ハ必ズ現存セシモノナ  
ルベシ、「イリアド」篇ニハ「トロイ」ニ在リシ勇者ガ此軍歌ヲ歌ヒシコト、セリ、又「イ  
リアド」ト「オディッセー」ノ二篇ハ此種類ノ古歌ヲ基トシテ作り出サレタルモノナリ、  
「オディッセー」ニハ諸王ノ宮殿ニ於テ此等ノ歌ヲ歌ヒシ樂人又ハ唱歌者ノ生キ寫シ  
ヲ與フルナリ、其次第八王ガ大宴會ヲ開クニ當リテハ、守衛官ヲ使者トシテ、神ノ如  
キ唱歌者ヲ招待スルナリ、何故此唱歌者ヲ神ノ如キト云フナラバ、神ハ我等ヲ喜バ

シメンガ爲メニ、多數ノ歌ヲ此唱歌者ニ與ヘタリト古人ハ信シ居リタルナリ、ソレ  
ユヘ守衛官ハ此善ク待遇サル、唱歌者ヲ携ヘ來ル、詩歌ノ女神ミューゼスハ殊ニ  
此唱歌者ヲ愛シ、善惡共ニ此者ニ與フルナリ、即チ惡ノ方ニテハ其視覺ヲ奪ヒテ之  
ヲ盲人ニシ、善ノ方ニテハ美歌ヲ與フルナリ、サテ守衛官ハ宴會者ノ中央ニ於テ、高  
キ圓柱ニ密接シテ銀ノ釘ヲ以テ飾ラレタル椅子ヲ唱歌者ノ爲メニ安置シ、其頭上  
ノ木釘ニ罫子ノ善キ堅琴ヲ掛ク、盲人ノ手ガ之ニ觸レ得ル様ニ案内シ、又其側ヲニ  
酒食ヲ具シタル食案ヲ置クナリ、宴會終レバ唱歌者ハ堅琴ヲ彈シテ人々ノ名譽ヲ  
詠ゼシ歌ヲ唱フルナリ、此ノ如キ唱歌者ハ單ニ伎藝家ト見做サル、ノミナラズ、神  
託ヲ受ク居ル者ト考ヘラレタリ、故ニ自然ニ神聖ナル性質ヲ有チシナリ、  
史詩ハ唱歌者ガ堅琴ヲ以テ唱ヘシ歌ヲ濫觴トス、史詩ヲ「エヒツク」ト云フハ、希臘語  
ノ「エボス」ヨリ來ル、此語ハ「音聲」ト云フ意味ヲ有スルナリ、其語原ヲ「ゼエフ」ト云フガ  
故ニ、雜句語ノ「ゾオクス」即チ音聲ト云フ語ト、英語ノ「誘引」スルト云フ意味ノ「ゾイン  
ツァイト」ノ「ゾァイト」關係アリト云フ、希臘語ノ「エボス」ハ特ニ神託ノ「エト」ニ用ヒラ  
レタリ、此ハ神ノ答ハ音聲ノ中ニ於テ最モ肝要ナルガ故ナリ、サテ神託ハ詩句ヲ以

テ與ヘラレシガ故ニ、遂ニ「エポス」ト云フ語ハ轉シテ「詩句」ト云フ意味ヲ有スルニ至リタリ、其複數ノ形「ナル」エ「ビ」ハ一般ノ詩、又ハ單ニ一篇ノ詩ト云フコトニモ用ヒラレタリ、後チ琴歌ガ音樂ニ合ハサレテ、之ヲ「歌ヒモノ」ト云フ意味ノ「照メリー」ト呼バル、ニ到リテ、音樂ニ合ハサズシテ唯吟唱サレルモノヲハ「話サレル詩」ト云フ意味ニテ「エピー」ト呼ソテ區別セリ、此ノ如ク唯吟唱サレタルモノハ「ホーマル派」ノ詩篇ノ如ク、六脚韻ノ記事體ノ詩ナリ、故ニ此種類ノ詩ニ殊ニ「エピー」ト云フ名ヲ附セシヨリ、「エピツク」ト呼ブニ到リシナリ、

「アリスト」トトルノ説ニ依レバ、史詩ノ題ハ必ズ大ニシテ且ツ尊貴ナルモノヲ要ス、又一ニシテ完全ナラザルベカラズ、言フコ、ロハ始メヨリ終リニ到ルマデ正格ノ發達進歩ヲ要スルナリ、紀元前七百年前ノ希臘ノ詩ニシテ今尙現存スルモノハ唯此史詩ノミナリ、後世ノ文學ニモ模造擬作ノ史詩アリト雖モ、今ハ其根原ノ史詩ニ就テ研究スベキナリ、此根原ノ史詩ハ「ホーマル派」ノ「イリアド」ト「オヂツセ」トノ二篇トシテ「クワツク」即チ「ホーマル」後ノ詩人ノ斷篇ト、ヘウオドノ詩ト、ホーマル派ノ讚歌美トナリ、

「イリアド」詩篇ノ話

「イリアド」トハ小亞細亞ノ西北部ニ在リシ、メウアノ都府「イリオン」又ハ「トロイ」ノ詩ト云フコトナリ、即チ此詩ニ謂フ所ハ、希臘人ガ十年間「トロイ」ヲ圍ミシ事實ノ始末ナリ、始メ「トロイ」ノ王「アリアム」ノ子「パリス」一名「アレキサンダル」ハ、希臘「スパルタ」ノ王「メネラウス」ノ妃ニシテ最美ノ婦人タリシヘレンヲ奪ヒ去レリ、ヘレンニハ多數ノ求婚者アリタリ、然ルニ其父「タイアス」ハ此等ノ求婚者ニ約束セシニハ、若シヘレンガ奪ヒ去ラレシコトアラバ、誓テ其強奪シテ夫トナリシ男子ヲ攻撃シ復讐スルコトニ一致スベシトナリ、此ハ大無量姦經ノ五惡段ノ第二ニ不義ヲ誦ムル中ニ、細色ヲ賄賂シテ邪態外ニ逸シ、自妻ヲ厭ヒ憎ミテ、私ニ妄リニ入出シ、家財ヲ費損シ、事非法ヲ爲ス、交結聚會シテ、師ヲ與シテ、相伐チ、攻劫殺戮シテ、強奪不道ナリトアル佛語ヲ以テ評スベキ程ノ事情ナリ、故ニ「ミセリ」ノ王「アガメム」ノハ希臘ノ諸方ヨリ競争セシ求婚者及ビ他ノ主長ヲ招集シテ、「トロイ」ヲ圍ム爲メニ多數ノ船ヲ以テ航海セリ、十年間此連合兵ハ空シク「トロイ」ヲ圍ミタリ、其間「トロイ」人ハ曾テ出テ來リテ正々堂々タル戰ヲ爲シタルコトハ無カリシナリ、如何トナレ

此時ノ希臘人ノ軍中ニ一人ノ勇士アリテ、トロイイ軍人中ノ大勇者ヘクトルト  
 雖モ其前ニ立ツコト能ハザレバ故ナリ、此勇士ノ名ヲアチルレスト云フ、此人ヲ  
 女神セーテイスガ「セツサリ」ノ「フスイ、オーテイス」ノ王ペレアスノ許ニ携ヘ來リタリト  
 云フ、然レドモ圍城ノ第十年ニ於テ、アチルレスハアガメムノ王ヨリ重キ凌辱ヲ  
 受ケタリ、即チ此王ハアチルレスガ生ケ捕ヘシ處女アリセーイス分捕物ヲ取り去  
 レリ、其時アチルレス怒リテ曰ク、我復々希臘人ノ爲メニ戦ハズト、軍ヲ去リテ海濱  
 ノ自身ノ天幕ノ中ニ退ケリ、

此時ニ於テ、イリアド篇ハ始マレリ、其始メニハ、女神ヨ、アチルレスノ怒ヲ頌セヨト  
 アリ、此怒ガ何事ヲ爲シ、終ニ如何ニ轉ゼシカト云フコトガ、此詩ノ大主旨ナリ、然レ  
 ドモ「トロイイ」ガ將ニ落城セントセシ圍城ノ最後ノ年即チ第十年ノ僅々數日ノ間  
 ダニ於テ、圍城中全軀ノ奮ヲ示スガ如キ結構ナリ、アチルレスガ戦ヲ否ミシ第一ノ  
 結果ハ今マア殆ソド十年間城ヲ出テ、戦フコト能ハザリシ「トロイイ」人ガ希臘人  
 ニ戦ヲ挑ミシコト是ナリ、此詩ハ二十四篇ニ分タレタリ、其初メノ十五篇ハ躊躇セ  
 ル争鬪ノ話ヲ以テ成リ立チタリ、即チ兩軍ノ間タノ一勝一敗ノ有様、又希臘ノ勇士

ガ「トロイイ」ノ勇士ト格闘シテ或ハ斬殺シ或ハ斬殺セラレシ次第、又ハ諸神並ニ諸  
 ノ女神ガ兩軍ノ戦鬪ニ於テ其一方ヲ助ケレ事杯ヲ奮キ出シテアリ、然レドモ希臘  
 人ハ遂ニ固ク懸メラレタリ、其時アチルレスノ友人パトロクラスハ懇訴シテ曰ク、  
 嗚乎汝ノ威勢ニ於テ恐ルベキ事アリ、若シ汝ガ希臘人ヨリ滅亡ノ醜態ヲ除キ去ル  
 ニ非サレハ後世子孫汝ノ善事ヲ保有スルコトヲ得ル者アランヤト云ヘリ、アチル  
 レスハ尙戦フコトヲ肯ンゼズ、唯其鎧ヲパトロクラスニ貸シ與ヘタリ、此ハパトロ  
 クラスヲアチルレスナリト人ニ誤解セシメンカ爲メナリ、且ツ附屬者「ミルミド」  
 人ヲ率フルコトヲモ許セリ、去リ乍ラパトロクラスハヘクトルニ斬殺セラレタリ、  
 ソコデアチルレスハ遂ニ振起セラレタリ、即チ戰場ニ突進シ「トロイイ」人ヲ其城壁  
 ノ内ニ追ヒ入レ、トロイイ人ノ最後ノ望ヲ屬セシヘクトルヲ殺シ、其死骸ヲ拽キ摺  
 リテ、兵車ニ縛リ著ク、船ニマア立チ歸レリ、イリアド篇ノ結局ハ「トロイイ」ノ王アリ  
 アムガアチルレスヨリ其殺サレタル子ヘクトルノ死骸ヲ貰ヒ受ケシカ爲メニ來  
 リシ事ナリ、其老人ナル王ハ曰ク、我ハ世界ノ人ガ誰モ未ダ曾テ耐忍セザリシコト  
 ヲ耐忍セリ、即チ我子ヲ殺セシ所ノ人ノ手ヲ我唇ニマア擧グルコト是ナリト云ヘ



リ、アチルレスハ其睛ヲ容シタリ、而シテ「トロロイ」ノ人民ガヘクトルニマア最後ノ  
儀式即チ葬式ヲ舉行セシ間ダハ休戦アリタリ、

「オディツセー」ノ話

「オディツセー」トハオディツセアス王ノ時ト云フ意味ノ語ニシテ此王ガ「トロロイ」ノ戦争  
後ノ事ヲ賦セシ詩篇ノ名ナリ、此王ヲ羅馬人ハアリツス、イスト呼ビタリ、此ハ「イサ  
カ島」ノ王ニシテ「トロロイ」ニ向テ戦ヒシ希臘ノ諸王ノ中ニ於テ最モ賢明ナリシ人  
ナリト云フ、「トロロイ」ガ攻メ取ラレシ時、此王ハ其從者ト共ニ「イサカ」ニ向テ出帆セ  
リ、然ルニ其航海中ニ彼等ハ「サイクローペス」ト稱スル一眠ノ巨人ノ野蠻人種ノ居  
住セル土地ニ吹キ寄せラレタリ、此土地ニ於テ其酋長タル怪物ノボリフエーマス  
ハ王ノ同伴者六人ヲ食セシ故ニ、王ハ其眼ヲクワテ拔キタリ、サテ此怪物ノ父ハ海神  
ポセイドーンナリ、此海神ハ怒ニ乘シテ王ヲシテ海上ノ尙遠隔ナル地方ニマアサ  
マロハセタリ、此有様ヲ以テ「オディツセー」ハ其詩篇ヲ始ム、此ハ「トロロイ」ノ落城ヨリ  
十年ノ後ニシテ、オディツセアス王ハ尙家ヲ離レテ海ノ中央ノ「オーチダア」ノ島ニ在  
リ、七年ノ間タ女神カリブソ（隱匿ト云フ意味ノ語）ハ王ヲ愛シテ、王ノ意ニ反シテ

之ヲ抑留セリ、龍宮ノ乙姫ト浦島太郎ノ話ヲ合セ考フヘシ、此同時ニ本國「イサカ」ニ  
於テハ王妃ベチロビーハ一百人ノ無法暴戾ナル求婚者ニ陷網セラレ、此人々ハオ  
ディツセアスノ家ヲ我家ノ如クニシテ痛飲ノ宴ヲ張リタリ、王妃ハ此等ノ求婚者  
ノ撰擗ヲ爲ス前ニ自ラ織ル所ノ袷衣即チ死骸ノ捲衣ノ美麗ナルモノヲ仕上ケ度  
シト云フコト口實トシテ、時ヲ延バスコトヲ試ミタリ、而シテ毎夜晝ノ間ダニ織リ  
タ所ヲ取り去リタリ、然レドモ三年間此ノ如ク爲セシ時ニ、求婚者ハ其詭計ヲ發見  
シ、一層熱心ニ迫リ來レリ、是ノ時ニ當リオディツセアスノ子ヲレマカスハ友誼アル  
女神アセーニーニ強ヒラレテ、父ノ搜索ノ爲ニ「ペロポチサス」ノ「ピラス」ニ赴キ、其地  
ノ王子ストルニ響應サレ、又「スパルタ」ニ行キテハメテラウス王ノ寶トナレリ、  
「オディツセー」ハ此レヨリ再ビオディツセアス王ノ事ニ立チ歸レリ、即チヘルメスト云  
フ神ハゼアス神ノ命ヲ女神カリブソニ傳ヘテ王ヲ留メルコトナカラシム、女神  
ハ命ニ從ヘリ、ソコオディツセアス王ハ自身ニ作りシ一種ノ筏ニ乘リテ女神ノ島  
ヨリ出帆セリ、然ルニ王ノ奮敵ナル海神ポセイドーンハ直チニ王ヲ看出ダシテ其筏  
ヲ覆ヘセリ、然レドモ海ノ女神イノーハ王ニ魔法ノ肩掛ケヲ與ヘテ王ヲ助ケタリ、

因テ王ハ「アアイエーシア」ト云フ人民ノ島ニ安着セリ、此人民ハ諸神ニ近キ富ミ且ツ幸ヒナル者ニシテ航海者トシテ有名ナリ、其樹園ニハ年中果實アリト云フ、アルビナス王ハ「オアツセアス」王ヲ饗應セリ、此漂着シタル王ハ總ベテノ奇異ナル冒險ノ事業ヲ話シ出ダセリ、其一ハ王ガ女神カリブソノ島ニ來リシ前ニ、王ノ一行ハ妖術ヲ使用スル女シルセーノ住スル島ニ到リシ事アリ、其時此妖女ハ王ノ同行者ヲ豕ニ變化セリ、然ルニ王ハ「モリ」ト呼ブ所ノ面白キ一種ノ年草(多汁ノ軟莖ヲ有スル草ニテ根モ亦毎歲霜枯レスルモノヲ云フ、英國ニ「アルブ」ト云フ)ニ依テ助ケラレ、ソレヨリ朋友ヲ人間ニマデ復歸セシムルコトヲ妖女ニ説キ勸メタリシ次第、其二ハ王ノ一行ガ善ク歌フ所ノ小女神ノ海濱ニ沿ヒ、シルラト「カリブアス」トノ間ヲ通過セシ次第、其三ハ王ノ同行者ハ日神ノ神聖ナル奄牛ヲ殺セシガ故ニ終ニ皆死セシ事ノ次第ナリ、

其時王ノ安着セシ島ノ舟乗リノ人ハ舟ヲ以テ王ヲ「イサカ」ニ送り來レリ、王ノ忠實ナル牧豕者ユローメリアスハ王ヲ知ラザリシ、此ハ「アセー」ニイ女神ガ王ノ形ヲ老ヒタル乞丐者ト變セシガ故ナリ、然レトモ王ノ老犬「アト」ガスハ其主人ガ二十年間不在ナリシニモ拘ハラズ王ヲ知レリ、即チ乞丐者ガ近ツキシ時ニ犬ハ其尾ヲ搖カシテ耳ヲ垂レ、而シテ死セリ、其間タニ王子ヲレマカスハ王ノ搜索ヨリ歸リ來レリ、アセーニイ女神ハ父ノ王ヲ王子ニ默示セリ、ソレヨリ王ノ父子ハ王妃ニ婚ヲ求メシ人々ニ對スル復讐ノ謀計ヲ議セリ、オアツセアス王ハ尙其形ヲ變セシマ、ニシテ、夫ノ王ノ消息ヲ持チ來ルコトヲ口實トシテ王妃ベテロビニ謁見セリ、此時王ノ老々乳母「ユ」リク「レ」アノ爲メニ殆ント發見セラレメトスルニ到レリ、此老嫗ハ王ノ兩足ヲ洗ヒシ時ニ一ノ傷痕ヲ看認メタリト云フ、サテアセーニイ女神ノ神威ヲ受ケタルベテロビハ曰ク、若シ能ク我家ノ遺物ナル勇者ユ「リ」ク「ス」ノ弓ヲ奪テ正廳ニ於テ前後ニ並ヘタル十二ノ戰斧ノ柄ノ穴ヲ通シテ一矢ヲ射ル者アラバ、我ハ其人ト婚スヘシト云ヘリ、求婚者ハ一人トシテ其弓ヲ奪キ得ル者モ無カリシナリ、然ルニ乞丐者ト形ヲ變シタルオアツセアスハ容易ニ之ヲ奪キ、盡ク十二ノ斧ノ柄ヲ通シテ矢ヲ貫ケリ、此レガ求婚者ヲ殺スコトノ兆候トナリ、ソレヨリ求婚者ヲ射殺スル所ノ矢ハ殆ンド雨ノ如シ、遂ニ王子ヲレマカスト二人ノ忠臣ノ助ヲ得テ多數ノ求婚者ヲ盡ニセリ、是ニ於テ遂ニ王ハ自身ガ眞ニ王タルコトヲ王妃ニ示

不在ナリシニモ拘ハラズ王ヲ知レリ、即チ乞丐者ガ近ツキシ時ニ犬ハ其尾ヲ搖カシテ耳ヲ垂レ、而シテ死セリ、其間タニ王子ヲレマカスハ王ノ搜索ヨリ歸リ來レリ、アセーニイ女神ハ父ノ王ヲ王子ニ默示セリ、ソレヨリ王ノ父子ハ王妃ニ婚ヲ求メシ人々ニ對スル復讐ノ謀計ヲ議セリ、オアツセアス王ハ尙其形ヲ變セシマ、ニシテ、夫ノ王ノ消息ヲ持チ來ルコトヲ口實トシテ王妃ベテロビニ謁見セリ、此時王ノ老々乳母「ユ」リク「レ」アノ爲メニ殆ント發見セラレメトスルニ到レリ、此老嫗ハ王ノ兩足ヲ洗ヒシ時ニ一ノ傷痕ヲ看認メタリト云フ、サテアセーニイ女神ノ神威ヲ受ケタルベテロビハ曰ク、若シ能ク我家ノ遺物ナル勇者ユ「リ」ク「ス」ノ弓ヲ奪テ正廳ニ於テ前後ニ並ヘタル十二ノ戰斧ノ柄ノ穴ヲ通シテ一矢ヲ射ル者アラバ、我ハ其人ト婚スヘシト云ヘリ、求婚者ハ一人トシテ其弓ヲ奪キ得ル者モ無カリシナリ、然ルニ乞丐者ト形ヲ變シタルオアツセアスハ容易ニ之ヲ奪キ、盡ク十二ノ斧ノ柄ヲ通シテ矢ヲ貫ケリ、此レガ求婚者ヲ殺スコトノ兆候トナリ、ソレヨリ求婚者ヲ射殺スル所ノ矢ハ殆ンド雨ノ如シ、遂ニ王子ヲレマカスト二人ノ忠臣ノ助ヲ得テ多數ノ求婚者ヲ盡ニセリ、是ニ於テ遂ニ王ハ自身ガ眞ニ王タルコトヲ王妃ニ示

シテ旅行中ノ事ヲ王妃ニ話セリ、ソレヨリ此時ノ第二十四篇ニ到リテ明ス所ハ、  
ルメス神ガ求婚者ノ幽靈ヲ地下ニ導キシ有様「イサカ」ニ在リシオディツセーガ其父  
レールラスニ知ラレシ有様求婚者ノ親族ノ復讐ヲ謀リシ者ニ勝チシ有様其人民  
ト一和セシ有様ナリ、以上オディツセー詩篇ノ話ノ大略ナリ、

コレヨリホーメル(此レヨリ以前ニホーメルトセシハ皆ホーメルニ作ルベシ)ノ事  
ニ移ルベシ希臘人ヲ始メトシテ前世期ノ終リマデハ殆ンド一般ニ「イリアド」ト「オ  
ディツセー」トノ二篇ヲ共ニ一詩人ホーメルノ作ナリト信シ居レリ、ホーメルノ名ハ  
ヘラオトノ不正ナル断簡ニ記セラレタリ、而シテ正實ナル最モ早キ記載ハ西曆紀  
元前五百十年頃ニ繁昌セシ哲學者ニシテ詩人ナリシゼノフアニスノ著書中ニ  
在リ、ホーメラスト云フ語ハ共ニ合ハサシタル又ハ齊備セラレタルト云フ意義ノ  
語ニシテ、二黨ノ間ニ約束シタル質物ト云フコトヲ言ヒ顯ハス爲メニ普通ニ用  
ヒラレタル語ナリ、然レドモホーメルノ傳又ハ年代ニ關シテハ微シトスベキコト  
ノモノナシ、多分ノ説ハ凡ソ紀元前一千零四十四年ノ頃ニ小亞細亞地方ニ希臘ノ  
「イオニア」ノ植民地ノ出來シ時分歟、又ハソレヨリ一百年モ後歟ノ間ヲ以テホー

メルノ年代トスルナリ、ホーメルニ關シテ筆ヲ執リシ哲學者アリスト「トルトホ  
ーメル」ノ批評家アリスタ「カスト」ハホーメルノ年代ヲ凡ソ紀元前一千零四十四  
年トナスガ如シ、又紀元前四百四十年頃ノ歴史家ヘロドタスハ同時代ノ最多説ト  
異ナリテ、ホーメルハヘラオトト同ク八百五十年頃ノ人ナリト云ヘリ、希臘ノ碑  
文ニ依レバホーメル生地ハ「スミルナ」トモ「キオス」トモ「コロフオン」トモ「イサカ」トモ、  
「ピラス」トモ「アゴス」トモ「アゼンス」トモ見ユルナリ、併シ乍ラ其中ニ就テ最モ證明  
シ得ベキ所ハ「スミルナ」ナリ、此地ハ初メハ「イリオリス」ノ都府ナリシモ、後ニ「イオ  
ニア」(前ニ「イオニア」ニヤシトセシモ「イオニア」トスヘシ)ノ都府トナリシ處ナ  
リ、ホーメルノ上古ノ異名ヲ「メレス」イ「ヂエニス」ト云フ、此ハ「イリオリス」ト「イオニ  
ア」トノ國境ニ於テ「スミルナ」ヲ貫ヒテ流ル、所ノ河ノ名ナル、メレスノ子ト云フ意  
義ノ語ナリ、此ニ就テモ「イリアド」ガ「イリオリス」ノ題ヲ以テ詠セシ「イオニア」ノ詩  
ナルコトヲ思ハ、此異名ノ意義モ明白ナルベキナリ、サテホーメルハ盲人ナリシ  
ト云フコトノ傳説ハ「プロスト」ト云フ地ノ「アホツロ」神ノ讚美歌アリテ、ホーメル派ノ  
モノナリ、此歌ノ中ニ作者ガ自身ノ事ヲ「キオス」ニ住スル盲人ナリト云ヘリ、但シ作

者ノ名ヲ知ルニ由ナリ、然ルニ上古ノ人ハ此讚美歌ヲ以テホーメルノ自作ナリト  
 思ヒレヨリ起リ、コトナルベシト云フ、又「サイク、ラアス」群島ノ一ナル、アイオース  
 ト云フ小島ニハホーメルノ墓アリト云フナリ、又「ホーメリア、」ト云フ語ハホーメ  
 ルノ子孫ト云フ意義ナリ、此名ヲ以テ呼ブ所ノ人々ハホーメルノ子孫ナリト主張  
 シテ「イオニア」ノ「キオス」島ニ住セリ、而シテ史詩即チ紀事詩ヲ作ル術ハ此等ノ人  
 々ノ家傳ナリシコトハ、詩ト音樂トヲ始メ其他ノ諸技藝術ニ於テ希臘人ノ開クニ  
 家傳ト云フコトニアリシト一般ナリシト云フ、  
 次ニホーメルノ詩ノ履歷ヲ檢査スベシ、前ニ云フ所ノ「イリアド」ト「オディッセイ」トノ  
 二篇ハ、小亞細亞ノ「イオニア」ノ海岸ニ於テ其源ヲ發シ、後ニ希臘ノ本國ニ流傳セ  
 シナリ、スバルタ人ノ云フ所ニ依レバ、二篇ノ全本ヲ始メテ希臘ニ將來セシ者ハ、彼  
 等ノ立法者リカルガスニシテ、此人ハ「サモス」ニ居住セシ詩人ノ一家、クレオフォリ  
 ア「イ」族ヨリ得タリト云ヘリ、「イリアド」ガ始メテ歌ハレシ時ニハ、「アヘンヌ」ハ未ダ著  
 明ナラザリ、如レ、即チ此詩ノ中ニハ、善ク建築サレタル都府ナリトシテ、唯  
 一度其地ヲ擧ゲ、又「アヘンヌ」ノ軍人ノ中唯一人ノ名ヲ擧ゲタレドモ、其名モ亦著明  
 ナルモノニ非ズ、併シ乍ラ希臘ノ本國ニ於テ此等ノ詩ヲ初メテ愛護セシコトハ、ス  
 バルタ「ニ」於テ非ズ、却テ「アヘンヌ」ニ於テ致セシナリ、此保護ノ起原ハ西曆  
 紀元前第六世期ニ在リ、此事ニ關セシ人三名アリ、其一ヲ立法者ソロントシ、其二ヲ  
 擅制主ペイリストシ、其三ヲ其子ヒヲバルカストスルナリ、其第二ニ擧  
 ゲタル君主ハ紀元前五百三十七年ヨリ五百二十七年マダノ在位ナリシニ、其後年  
 ニ於テ「ホーメル」ノ詩ノ編集委員ヲ學者ニ命ゼリ、此時詩人オノ「サク」タスハ其委  
 員長トナリタリ、普通ニ信スル所ニテハ、此時二篇ノ詩ハ已ニ現存セシモ、前後ニ關  
 セズシテ短キ部分ヲ抜き取ラテ之ヲ誦讀セシコトノ流行セシヨリ、其錯簡ヲ來セ  
 シコト非常ナリ、又此二篇ノ外ニモ、「イオニア」學派ノ人々ノ作りシ多數ノ史詩ニ  
 シテ「ホーメル」ノ作トシテ傳ハリシモノアリタリ、因テ右ノ委員ノ事業ハ總テ此等  
 ノ「ホーメル」ノ詩ト云ヒ傳スレモノヲ收輯シテ全集ヲ作ルコトナリシ、此全集ヨリ  
 シテ、委員ハ「イリアド」ト「オディッセイ」トノ二篇ニ關ケタリ、下惣テ部分ヲ補フコトヲ  
 得タリシナリ、此委員ノ所爲ハ今日ノ意味ヲ以テハ批評的事業ト云フコト能ハズ  
 ト雖モ、スイヌストレータスノ代ニ於テ開ク所ノ「ホーメル」ノ詩ヲ保存スル爲メニ

ナルモノニ非ズ、併シ乍ラ希臘ノ本國ニ於テ此等ノ詩ヲ初メテ愛護セシコトハ、ス  
 バルタ「ニ」於テ非ズ、却テ「アヘンヌ」ニ於テ致セシナリ、此保護ノ起原ハ西曆  
 紀元前第六世期ニ在リ、此事ニ關セシ人三名アリ、其一ヲ立法者ソロントシ、其二ヲ  
 擅制主ペイリストシ、其三ヲ其子ヒヲバルカストスルナリ、其第二ニ擧  
 ゲタル君主ハ紀元前五百三十七年ヨリ五百二十七年マダノ在位ナリシニ、其後年  
 ニ於テ「ホーメル」ノ詩ノ編集委員ヲ學者ニ命ゼリ、此時詩人オノ「サク」タスハ其委  
 員長トナリタリ、普通ニ信スル所ニテハ、此時二篇ノ詩ハ已ニ現存セシモ、前後ニ關  
 セズシテ短キ部分ヲ抜き取ラテ之ヲ誦讀セシコトノ流行セシヨリ、其錯簡ヲ來セ  
 シコト非常ナリ、又此二篇ノ外ニモ、「イオニア」學派ノ人々ノ作りシ多數ノ史詩ニ  
 シテ「ホーメル」ノ作トシテ傳ハリシモノアリタリ、因テ右ノ委員ノ事業ハ總テ此等  
 ノ「ホーメル」ノ詩ト云ヒ傳スレモノヲ收輯シテ全集ヲ作ルコトナリシ、此全集ヨリ  
 シテ、委員ハ「イリアド」ト「オディッセイ」トノ二篇ニ關ケタリ、下惣テ部分ヲ補フコトヲ  
 得タリシナリ、此委員ノ所爲ハ今日ノ意味ヲ以テハ批評的事業ト云フコト能ハズ  
 ト雖モ、スイヌストレータスノ代ニ於テ開ク所ノ「ホーメル」ノ詩ヲ保存スル爲メニ

一ノ規則ヲ設ケシコトハ疑フベカラザル事實ナリ、尙一ノ事實アリ、即チ紀元前第六世期ニ當リテ、四年毎ニ閉設セシ、パナセニ「ア」ト呼ビシ、アセシスノ最大祝祭日ニ於テ、ホーメルノ詩ヲ誦スル者ハ賞譽ヲ得ルコトヲ説ビシ事是ナリ、此等ノ誦者ハ「ラフソ」ト呼ビレタリ、此ハ「歌ノ總綴者」ト云フ意味ノ誦ニシテ、長ク滑ラカニ流ル、ガ如キ唱歌即チ史詩ヲ綴リ出ダス者ト云フ程ノ意義ニ用フルナリ、以テ唱歌ノ様子ヲ察知スベシ、詩人ト誦者トノ性質ハ常ニ兼テランタリ、此事ハ第一ニハ上古ノ俗人ノ間ニ現存セリ、次ニハ前ニ云ヒシ「ホーメリア」ノ如キ世襲ノ詩家ニ於テモ亦然リ、其後ハ一般ノ詩人又ハ誦者ヲ總ラテ「ホーメリヤ」ト呼ビテ、其間ニモ此作者ト唱歌者トノ性質ヲ兼ヌルコトハ現存セリ、但シ上古ノ俗人ハ堅琴ヲ彈シテ唱歌セシモ、後世ノ誦者ハ單ニ桂樹ノ枝ヲ手ニシテ歌フノミ、此桂樹ノ枝ハ詩ノ記號ナリト云フ、サテ印度ノ田舎ニ於テハ今尙史詩ノ大作ノ一篇ヲ誦スル者アレバ、一般ノ聽者ハ其歌人ノ唇ニ固執スト云フコトナリ、之ヲ以テモ希臘人ノ古代ノ有様ヲモ比例シテ想像シ得ベシ、

希臘ニ於テホーメルノ詩ヲ勉學セシ有様ヲ云ヘバ、他國ノ人民ガ其國詩ニ對スルヨリモ其感情ハ一層深カリシトナリ、其次第ハ他國ノ人民ハ其國ノ年代ノ移リ行クニ從フテ、其國ノ幼稚ノ時ノ詩ヲ見捨テルモアリ、中ニハ全ク散佚シテ傳ハラザルコトニ至ラシムルモノサヘモアリ、即チ西曆紀元前一百零六年ニ生レテ四十二年ニ死セシ羅馬ノ雄辨家セロハ其以前ノ羅馬古代ノ作ノ散佚ヲ悲歎セリ、又千七百二十九年ニ生レテ千八百十一年ニ死セシ英國ノ僧正ベルシノ英歌集ハ古代ノ大作ノ遺稿ヲ拾ヒタルモノニ過キザルナリ、又千七百七十一年ニ生レテ千八百三十二年ニ死セシ蘇國ノ小説家ニシテ詩人ナリシウオルタル、スコットハ捷カニ「ホルタル」ノ樂隊ヨリ古詩ノ遺物ヲ保存スルコトヲ得タリト云フ、然ルニホーメルノ詩ハ全ク然ラズ、上古ニ於テ一般ノ時好ニ投ズベキ程ニ單純ニシテ而モ剛強ナリシ而已ナラズ、其後ノ開明時代ノ學者ヲ満足サセルマデニモ十分熟達シタルモノト謂フベシ、兒童ハ學校ニ於テホーメルノ詩ヲ誦シ、宗教師ハ神ニ關スル説明ニホーメルノ詩ヲ引用シ、道徳家ハ格言ヲホーメルノ詩ニ於テ搜索シ、政事家ハ議論ニ之ヲ引證シ、都府ハ封境又ハ同盟ノ願望ヲ以テ此詩ヲ取レリト云フ、言テ替ヘ

ヲ云ヘバ、希臘ノ都府ハホーメルノ詩ノ中ニ在ル地名ヲ自分ノ領地内カ又ハ其地ニ關係アリトスルヲ名譽トセシコトヲ云フナリ、又貴族ノ家ニ於テハ各自ノ名譽ノ證據トセントテホーメルノ詩ヲ研究セシコトナリ、夫故ニ紀元前四百五十年頃ヨリ普通ノ祝賀ニ用ニベキ爲メニ種々ノ都府ニ於テ準備セシ國民本アリテ、其他ニモ多數ノ校正者ガ各其校訂本ヲ出ダセシコトアリ、其中ニ於テ最モ有名ナリシハアリストートルガ其門人タリシ亞歷山得大王ノ爲メニ準備セシ一本ナリ、此レハ珍器函本ト呼バレタリ、其故ハ亞歷山得ガ東征ノ時ニ寶石ヲ以テ飾ラレタル函ノ中ニ入レテ携ヘ居リシヨリ起リタル名ナリト云フ、

亞歷山得利亞府ニ於テホーメルノ詩ノ研究ノ最高點ニ達セシハアリストカスノ時是ナリ、此人ハ紀元前百五十年頃ノ希臘ノ文法學者ニシテ批評家ナリ、此人ノ校訂セシホーメルノ詩ハ定本トナリテ、此レガ今日世ニ行ハル、所ノ本ノ基礎ナリ、亞歷山得利亞ノ學者ハ前ニ擧ゲレベイス、ストレータス以前ノ本ヲ有セズ、又其委員ガナセシ事業モイカナルコトナリシ歟ヲ知リシ者殆ド無カリシ程ナリ、因テ此等ノ學者ハ種々ノ都府ニ於テ準備セシ國民本ヲ用ヒタリ、又「イリアド」ト「オヂ

ツセー」トテ各二十四篇ニ分テシコトハアリストカスノ事業ナリト一般ニ言ヒ傳フレドモ、此レハ紀元前三百五十年頃ニ已ニ分タレシコト、云ハレ得ルナリ、又ホーメルノ詩ノ諸篇者ヲ「イリアド」ト「オヂ」トハ其以前ニ短キ章段ニ分テシコトナリ、故ニ「イリアド」ノ今日現在ノ本ニ依レバ其第一篇ニハ怒リト時疫又ハ艱難ト云フ第二章ヲ含ムコト、知ルベシ、サテアリストカスハホーメル批評學派ト云フ一派ヲ開キ、紀元後二百年頃マアハ好結果ヲ以テ相續セリ、然レドモ此批評家ノ事業ハ今ハ纔ニ不十分ナル報告ニ依テ知リ得ベキ而已ナリ、

ホーメルノ二篇ノ詩ノ最モ古代ニシテ善良ナル寫本ノ現在セルモノハ紀元後第十世紀ノ本ナリ、此レハ前世紀ノ終リニ北伊太利亞國ノ威尼斯府ニ於テ見出ダサレタリ、此本ニハ註釋モアリテ、其中ニハアリストカスヲ始メ其他ノ亞歷山得利亞ノ學者ノ評論ヲモ保存シテアルコトナレバ珍重スベキ本ナリ、其時マアホーメルノ原本ハ紀元前一千年頃ヨリ傳ハリシ者ト考ヘラレタレトモ、今現存ノ本ハ亞歷山得利亞時代即チ紀元前百五十年頃ヨリ以前ノモノトハ見ラレザルナリ、ホーメルノ詩ヲ初メテ出版セシ年代ト地名ハ千四百八十八年ニ伊太利亞國ノ佛

羅稜斯ナリ、其校訂者ハ千四百三十年ニ生レテ千五百十年ニ死セシバイザンタイ  
 ノ、アミトリウス、コルコンブ、リースト云フ人ナリ、又威尼斯ニ於テノ最初ノ刊本  
 ノ年代ハ千五百零四年ナリ、  
 次ニ著者ノ問題ナリ、上古ニ於テハ「イリアド」ト「オデュッセー」ノ二篇ヲ共ニサトメル  
 ノ作トシテ疑ハザリシモ、紀元前百七十年ニ到リテ、文法學者ヘラニカストゼノ  
 トノ二人出デ、ホーメルハ「イリアド」ノ作者ナレドモ「オデュッセー」ノ作者ニ非ズト  
 主張セリ、因テコノ二人ト其派ノ人モ「コーリソフタイ」スト呼ビタリ、此ハ英語ニテ  
 ハ「セパレータルズ」ニシテ即チ別者ナリ、昔フコ、ロハ彼等ハ其本原ノ作者ニ就テ  
 二篇ノ詩ヲ區別セシガ故ニ爾カ云ヒシナリ、其證據ノ一ツハ文體ナリ、此レニハ文  
 學上ノ研究ヲ包含スルナリ、古代ノ希臘人ハ無批評者ニシテ、二篇ノ作者ハ同一ノ  
 人ナリト固ク信ワテ疑ハザリシナリ、唯二重ノ著者ト云フコトヲハ爭論スベシト  
 スル單一ノ事實ハ自然ノ疑ニ對シテ其本據アリト云フニ在リ、然ルニ其疑ハ之ヲ  
 領承スル者甚ダ少ナシ、アリストアルカスハゼノソノ逆説ニ對シテ駁論ヲ書セリ、  
 又紀元前三年頃ニ生レテ紀元後六十五年ニ死セシ羅馬ノ哲學者セネカハ短命論

ト云フ文章ノ中ニ於テ、生命ノ短キニ過ギタルモ疑問ナリト云ヘリ、昔フコ、ロハ  
 別論家ガホーメルノ短キ生命ノ中ニ二篇ノ詩ヲ書シ得ベカラズト云フテ反駁シ  
 テ、ホーメルノ生命中ニ二篇ノ詩ヲ書シ得ザリシトナラバ、其命餘リ短キニ過ギタ  
 リト云フ論鋒ナリシナルベシ、  
 千六百六十八年ニ生レテ千七百四十四年ニ死セシ伊太利亞ノ哲學者「ヴィーロ」ノ新  
 學原理トモ云フベキ著書ノ中ニハ上古世界ノ立法者ト詩人トノ大家ノ名ハ唯符  
 徴ナリト主張シテ、ホーメルハ希臘ノ紀事ノ詩即チ史詩ナリ、ホーメルノ詩ハ多數  
 ノ詩人ノ作ニシテ最初ハ書キ下セシモノニ非ズ、「オデュッセー」ハ少ナクトモ「イリア  
 ド」ヨリハ一世期モ後ノモノナリト言ヘリ、然レドモ「ヴィーロ」ハ證據ヲ有セザルナリ、  
 此等ノ説ハ千七百九十五年ニホーメルノ詩ノ刊本ノ序ニ於テ始メテ「フリードリ  
 ヒ、アウグスト、ゾオルフ」ニ依テ公ケニセラレタリ、ゾオルフハ千七百五十九年ニ生  
 レテ千八百二十四年ニ死セシ獨逸ノ古典學者ニシテ批評家ナリ、ゾオルフ曰ク、「イ  
 リアド」モ「オデュッセー」モ元來一篇ノ詩トシテ作ラレシモノニ非ズ、共ニ多數ノ口傳  
 ニ存セシ詩ヲ集メシモノナリ、而シテ此多數ノ詩ハ多數ノ詩人ノ作ナレバ、固ヨリ

普通ノ方法アリシニ非ズ、此等ノ多數ノ詩ヨリ二篇ノ詩ヲ始メテ結構シ、始メテ之ヲ書キ下セシモノハ、ペイヌ、ストレータスノ任ゼシ委員ナリト論決セリ、此ゾオル  
 ノノ理論ハ一般ニ普通ノ詩ノ本原ヲ説明スベキヲ以テ、當時獨逸ニ在テハ、技術ヨ  
 リ自然ト云フ點ニ轉向スル文學上ノ革命時代タリシカ故ニ頗ル信用ヲ喚起セリ、  
 但レ右ノゾオルフ以來、ホルメル研究ノ結果ハ、別ニ儘カナル理論ヲ證明セシニハ  
 非ズ、唯疑問ノ區域ヲ狭クスル一二ノ意見ニ對シテ以前ヨリモ一層多數ノ同意者  
 ヲ得シコトナリ、其意見ハ「イリアド」ト「オヂツセー」トノ二篇ハ詩ノ時代ノ始メニ屬  
 セズ却テ終リニ屬スト云フ事是ナリ、此二篇ハ「イリオリア」ノ樂人ノ歌ヒ來リシ  
 粗造ノ軍歌ヲ短キ小説體ノ詩ノ形ニ變ワテ、遂ニ勇者ノ紀事ニ適當ナル體ニマデ  
 漸次ニ發達セシ所ノ「イオーニア」ノ詩學派ノ達シ得タリシ最高點ヲ示スモノト謂  
 フベキナリ、

「イリアド」ハ「アチルレス」ノ赫怒ト云フ題ニ於テ一詩人ノ賦セシ比較上稍短キ詩ヲ  
 本原トシテ種々ノ手ヲ經テ長大ニサレ、且ツ改造サレタルモノナリト云フ、サテ此  
 「アチルレス」ノ赫怒ニ就ク本原ノ詩ハ多分紀元前九百四十年頃ニ出來シモノニ

シテ、單ニ短キ小説體ノ詩ト云フニハ非ズ、却テ其中心ノ趣向ガ種々ノ動作ニ對シ  
 テ一致ノ方向ヲ與ヘ、且ツ紀事體即チ史詩トモ呼バレ得ベキ程ノ大經番ノ詩ナリ  
 シナリ、此類ノ詩ハ澤山アリシナルベキモ、他ハ皆散佚シテ、此レガ最後ニ殘サレタ  
 ル最モ善良ナル一篇ナリシナルベシ、但レ若シ此詩ガ其種類ノ第一等ニアリタナ  
 ラバ、其作者ハ無論史詩ノ開祖ト謂フベシ、如何トナラバ此人ハ本原ノ軍歌ヲ史詩  
 トセシノミナラズ、小説體ノ詩ヲ短キ史詩ニ進メシマデノ功ヲ奏セシガ故ナリ、「イ  
 オーニア」ノ多數ノ詩人ノ中ニ於テ、最大著名ノ新趣向ノ才能アル一詩人アリシナ  
 ラント云フ假定説ハ、古來希臘人ノ確信スル所ニ「ホルメル」ト云フ一個人ノ詩人ア  
 リシト云フ傳説ニ左祖サルベキナリ、別シテ「ホルメル」ト云フハ符號ノ名トシテ説  
 明シ得ザルニ於テハ、一層此假定説ハ主張シ得ベキナリト云フ、

次ニ「オヂツセー」ハ單ニ一個ノ詩人ノ作ナリ、此詩人ハ前ニ謂フ所ノ「アチルレス」ノ  
 赫怒ト云フ題ノ詩ノ作者ヨリ稍後ナル人ニシテ、其以前ニ「トロイイ」ヨリ希臘ニ凱  
 旋セシ諸英雄ノ事ヲ小説體ニ叙述セシ古詩ヲ用ヒテ作り出シタル者ナリ、此「オヂ  
 ツセー」ノ出來上リシハ多分紀元前八百九十年ヨリ八百五十年頃マデノ事ナリ、此



シハ「イリアド」ホドニハ非ザレドモ、随分他人ノ撰リニ挿入セシ語句アリテ、其本原ノ趣向モ少シク變更サレタル所アリトナリ。「イリアド」ト「オデュッセイ」ノ二篇ハ共ニ「イオロニア」ノ海岸カ又ハ其附屬ノ諸島ニ於テ始メテ出來上リシモノヲ、後ニ希臘ノ本國ニ將來セシモノナリ、後ニ「オデュッセイ」ニ附テ加ヘシ部分ハ希臘ノ「ペロポネーニサス」半島ノ作ト謂フコトヲ得ルナリ、前ニモ謂ヒシ「ホーメリヂ」ト云フガ如キ詩族ハ、詩歌ノ藝術ヲ父子相傳ヘテ、古代ノ詩ヲ其傳家ノ重寶ト如クニ單ニ記憶ニ依テ保存シ、文學上ニハ未ダ一般ニ之ヲ書キ認メル事ノ流行セザル、謂フ所ノ書契以前ノ年代ヲ經テ、其古物ヲ失ハザリシナリ、然レドモ若シ「アタルレス」ノ赫怒ノ詩ノ出來シ時ニ、文書ノ術ガ已ニ「イオロニア」ニ知レテアリタラバ、タトヒ普通ノ文學上ニ文書ノ術ヲ用ユルコトハ餘程後世ノ事ニモセヨ、史詩ノ作者ハ最初カラ之ヲ用ヒシナラント云フコトハ思議シ得ベキ筈ナリ、

以上頌シキ希臘ハズ、ホーメルノ事ト、其著作ナリト云ヒ傳フ所ノ「イリアド」ト「オデュッセイ」トノ二篇ノ事ニ就クテ、泰西人ノ考説ヲ採萃シ、譯述シ了ル、

希臘上古ノ文學ヲ研究スル中、ホーメルノ二大詩篇ノ事ハ已ニ辨ツ了リ、次ニ「ホーメル」後ニ出テ、懐古ノ詩ヲ作リタル多數ノ詩人ヲ、シクリツク、ポイツフト稱シ、之ヲ紀事詩人ト譯スルナリ、此等ノ詩人ハ、彼二大詩篇ノ中ニ未ダ書キ顯ハサザル所ト「ロイ」ニ關スル歌ト話トノ澤山ナルヲ、材料トシテ、作り出ダシタルモノニシテ、此ハ紀元前七百七十六年ヨリ五百五十年マアノ間ノ業ナリ、此詩人ハ「イオロニア」學派ノ史詩家ニシテ、其目的ハ、彼二大篇ト自身ノ詩トヲ一連ニシテ、「ロイ」職争ノ記事ノ序又ハ續篇トスル心得ナリシトナリ、後世ノ神學者ハ、此等ノ詩ヲ本原トシテ年代ノ次第ニ從テ、其事實ヲ散文ニ書キ集メ、一ノ連續シタル話トシテ、其要點ヲ鈔出スル「フ」トヤ常トセリ、此ノ如キ散文家ノ手ニ成リタル文章ヲ「エピツク」サイクル即チ史詩ノ時期ト呼ビ、其散文家ノコトヲ「シクリツク」ライタルス即チ時期ノ著者ト呼ビシナリ、然ルニ現今ノ時代ニハ、此「シクリツク」即チ時期ノ「ト」云フ名ハ散文家ヨリハ詩人ニ冠スルコトハナレリ、

紀元後百四十年頃ノ希臘ノ文法學者「プロクラス」ノ文學藏ト題スル書ノ中ニ「ロイ」ニ關スル六篇ノ史詩ノ題ト主旨トヲ擧ゲテアリ、第一ヲ「シクリツク」

ト云フ、サイプラス人ノ小史詩ト云フ題意ナリ、此ハスタシーナスノ作ニシテ、トロ  
 ーイ遠征ノ準備ト、圍城ノ初メ九年間ノ紀事ニシテ、イリアドノ序トナルナリ、第二  
 タ、イースイオピアノ小史詩ト云フ、此ハ、ミレタスノアークテ、ナスノ作ニシテ、此中ノ  
 主人公ハ、イースイオピアノ君メムモスナルヨリ其名ヲ得タリ、此詩ハ、イリアドノ續  
 篇ニシテ、アマゾント呼バレシ勇婦等ノ、トロローイニ來リシ次第ト、アチルリスガ  
 彼等ノ女王ヲ殺セシ事ト、自身ザパリスニ殺サレシ始末マダ記載セリ、第三タ、ト  
 ローイノ強奪ト題スルモノニシテ、第二篇ト同作、且ツ其續篇ナリ、第四タ、小イリア  
 ドトス、此ハ、ミテ、レニ、ノレス、チニスノ作ニシテ、ホーメルノイリアドヨリ、トロ  
 イノ滅亡マダ記載シ、アヂヤクストフ、ロクラタイストヲ最モ拔群ノ如クニ書き出  
 ダセリ、第五タ、歸國ノ航海ト云フ意味ノ題ニシテ、此ハ、トロローイゼーヌノアギアス  
 ノ作ナリ、此中ニ配スル所ハ、戰爭後ノ多數ノ豪傑ノ冒險事業ニシテ、イリアドトオ  
 ブ、ツセー、トノ中間十年ノ空隙ヲ充タセシモノナリ、第六タ、タレゴリーナスノ小史詩  
 トス、此ハ凡ソ紀元前五百六十六年頃ノ、此等ノ紀事詩人ノ最後ノ一人タリシ、レ  
 ニ、ノ、チ、ノ、ガムモスノ作ナリ、此詩ハオプ、ツセアスノ子タレゴリーナスガ、其母タリ

シ唱歌女シルレ、ノ爲メニ父ノ搜索ニ送り出ダサレ、イサカニ於テ其父ヲ殺セシ  
 始末ヲ記載セリ、

右ノ外ニ尙種々ノ詩アリテ、或ハ小説ノ本原トナリ、又、イオリーニアノ史詩ノ吟誦ナ  
 ルヨリシテ、汎然トホーメルノ作ト稱シ來レル滑稽ノ詩アリ、有名ナルモノ二篇ア  
 リ、其中ノ一篇ハ、紀元前七百年頃ノモノナリト云フ、アリストートルハ之ヲ以テ笑  
 劇ノ第一ノ萌芽ナリト云リ、其題ヲ、マールギータイスト云フ、即チ愚者ト云フ程ノ  
 意ナリ、半ハ臆病者ニシテ、半ハ粧扮子即、ヤツシタトコト云フ者ノ事ヲ記載セリ、此  
 者ハ種々ノ事ヲ知りタレドモ、總テノ事ヲ惡シク知りシト云フ趣向ナリ、此詩ノ現  
 存スルモノハ、唯斷章零句ノミナリ、第二ハ蛙ト、鼯鼠トノ戰ト題スル一篇ニシテ、今  
 尙三百句程ハ現存セリ、此ハザルクセスノ軍ニ於テ有名ナリシハリカーナツサス  
 王ノ后、アータミレアノ弟、ピグレスノ作ナリトモ云ヘドモ、ソレヨリモ、文學ノ勢力  
 ノ衰ヘシ時ノモノニシテ、恐クハ紀元前百六十年頃ノモノナルベシト云フ人アリ、  
 兎モ角モ此詩ハ上古世界ニ於テ最モ人氣ニ適セシ滑稽詩中ノ一篇ナリシコト知  
 ルベシ、

サテ次ニ云フベキハヘサオドノ事ナリ、ホーメルノ外ニ於テ、希臘文學ノ中、史詩派ノ祖ト云ハル、大詩人ハヘサオドナリ、此人ノ行狀ハ、此人ノ作ト云ヒ傳フル所ノ詩ヨリ集メラレテアルナリ、此人ノ父アイアスハ小亞細亞ヨリ希臘本國ニ移リテ、ヘリコヌ山ノ近傍ノ、アスクラ村ノ高キ田地ノ在ル處ニ居テトセリ、此ハ彼レガ貧困ナリシニ由ルトノコトナリ、多分小亞細亞ノ商法世界ノ繁忙ニ堪ヘズシテ、故郷ノ閑靜ナル農業家ニマア退隱シテ、安穩ニ生活セシモノナルベシ、ヘサオドハ、アスクラ村ノ事ヲ不平ラシク、冬寒夏熱、四時不長ト評セリ、然レドモ此地ハ肥澤ナル土地ナレバ、ヘサオドノ評ハ不正ナリト云ハザルベカラズ、彼ハ、ヘリコヌ山ニ於テ父ノ牧羊者トナリテ、詩人ノ業ヲ始メタリ、晩年ニ、ロークリスノ、コリンス灣上ノ、ノーバクタスニ移住セシモノトス、此ノ如クニ、イオーリアレ、地方ヨリ、ドーリア地方ニ移リシヲ以テ、ドーリアノ勢力ガ自然ニ其詩ノ中ニ其痕跡ヲ殘ス所以ナリ、小説ニ謂フ所、エ依レバ、彼ハ、ロークリスノ、オイノーイニ於テ殺サレ、ノーバクタスニ葬ラレ、後世ニ到リテ其遺骸ハ他ニ移サレタリト云フ、

ヘサオドノ年代ハ確定シ難キナリ、イリアドニ記載スル所ノ、イオニアノ一大時期ヨリハ八十年乃至一百年程ハ後ノ人ナリシコトハ疑ナシト雖モ、又一方ヨリ觀察スレバ、歴史ノ曙光ト稱スベキ紀元前第七世期ノ詩入ヨリハ著ルシク前ノ人ナリシコトハ、當ニ特別ノ事實ヨリ知リ得ベキノミナラズ、希臘ノ著者ノ記載スル方法ニ依ラモ判定シ得ベキナリ、

以上希臘上古ノ文學ノ一斑ヲ講述シ了ル、

